

平成29年11月14日

磐田市廃棄物減量化等推進審議会 委員各位

磐田市廃棄物減量化等推進審議会  
会長 川島 あつ江

平成29年11月13日(月)「平成29年度 第2回磐田市廃棄物減量化等推進審議会先進地視察」を実施したので、関係資料を添えて報告いたします。

記

1. 日時 : 平成29年11月13日(月) 8:40~12:00
2. 場所 : 牧之原市白井749-20  
牧之原バイオガス発電所
3. 参加者 : 磐田市廃棄物減量化等推進審議会 委員 9名  
磐田市職員 5名  
(株)ゲネシス 代表取締役社長 1名

4. 議事 :

◎車中

- ・審議会長挨拶
- ・環境水道部長挨拶

◎牧之原バイオガス発電所事務棟2階研修ルーム

- ・磐田市廃棄物減量化等推進審議会 会長挨拶
- ・(株)ゲネシス代表取締役社長 より説明を受ける。  
別紙「視察資料」による
- ・質疑応答

◎牧之原バイオガス発電所 施設見学

- ・(株)ゲネシス代表取締役社長 より説明を受ける。
- ・ごみ対策課長よりお礼の挨拶

※なお、視察研修出席者には視察資料及びパンフレットの送付は省略させていただきますのでご了承ください。

## 【説明概要】

牧之原バイオガス発電所は環境事業会社アーキアエナジー株(東京)の子会社である(株)ゲネシスが運用している。(平成29年4月稼動)

静岡県は多くの河川があるので食品加工業が盛んであり、原料(食品廃棄物)が豊富にあること、「エネルギータウン構想」を推進している牧之原市の工業地帯に空いている土地があったことを理由に建設地に選定した。

現在、県内全域から食品廃棄物を回収しており、1日80トンの処理が可能である。362kWhの発電機は2機ある。家庭系生ごみの受入は現在していないが、平成30年度から牧之原市の学校給食センターの食品残渣の受入を行うことになっており、環境教育の場として地元の学生の受入れを積極的に行っていく。

## 【質疑応答】

Q原料として回収されているものの種類はどれくらいあるのか。

A 多岐にわたる。

県全域から集めており、野菜のカット工場やコンビニで販売する弁当屋などや、春華堂や三立製菓などの菓子会社も取引がある。惣菜やめんくず、やさいくず、ヨーグルト、缶詰め、飲料など

Q木屑なども原料となるのか。

A 有機物なら何でも可。ただガス生成効率がよいのは食品残渣なので、受入はしていない。食品残渣以外で受け入れているのは、ペットフードや点滴液などがある

Q経営について

A 廃棄物処理料が年間5~6億円の収入があり、売電は1kWh39円期間は20年の契約で年間1億5千万円収入がある減価償却は9年

Q発電した電力は発電所で使っているのか。

A 使っていない。売電価格は1kWh39円で買取価格は1kWh17円なので、買取し使用している。

Q磐田市内からの搬入はあるか。

A 今のところない。

Q売電だけでなく、売ガスは考えているか。

A 経済産業大臣による設備認定と発電場所を管轄する電力会社との契約をしているため、売ガスはできない。